

# 学ぶ喜び

VOL.20

ー仲間とともにつながる学校へー

2025.12.22

## 神田小の公開研に参加して

### 学びのコントローラーを子どもの手に

本校も、研究主題「学ぶ喜び」～仲間とつながる学校へ～のもと、「子どもに委ねる」「少しずつ手渡す」への転換を進めています。





これは、学習において子どもが自ら「選ぶ」「決める」という決定権、すなわち、

「学びのコントローラーを持つことをめざすものであり、学園内で同じ方向性を向きつつあると感じました。それでも、依然として小学校と中学校にはそれぞれの文化があり、研究への取り組み方については、学ぶことがたくさんあると感じています。

また、大村先生のお話で特に印象的だったのは、協働的な学びと個別最適な学びは対立するものではないということです。むしろ、これらは豊かな学びを実現するために一体的に充実させるべきであり、授業という相互作用的な営みを共に創り上げていくことが重要です。この点については本校の6月、9月の校内研でも質問があったところです。

子どもたち一人ひとりが自分らしく学び、他者との豊かな関わり（相互作用）を通して自己調整力を高められるよう、「学ぶ喜び」を「仲間とつながる」中で追求し続ける授業を創っていきたいと思います。

### 学習者主体の学びに至るには

		教科の学び	学び方	個別最適
↑ 主体のレベル	④ 子どもが自分で理解が深まるような学習の流れを計画して学ぶ		○	○
	③ 先生が子供の理解が深まるような学習の流れを示して子どもが（それぞれ）進める		○	○
	② 先生が子供の理解が深まるような活動を準備して理解させる		△	×
	① 先生がわかりやすく丁寧に教える		×	×

YU TAIZAN@ CHUKYO UNIVERSITY

StuDX Style  
2025

### 主体的な学習者を育てる授業の実現へ

#### 理解の調整

生徒が自らの「理解の仕方」を調整することが主体的な学びの核心。複数の説明モデルから自分に合った「わかり方」を見つけるプロセスを重視する。

#### ICT活用

ICT端末を「思考の道具」として活用し、全員の考えを可視化・共有する。これにより、思考のプロセスを具体的に評価することが可能になる。

まとめ

#### 対話の力

他者との対話を通じて思考を深め、理解を再構築する。単なる分担ではなく、説明と質問のやりとりが学びを豊かにする。

#### 明日の一步

「説明する場面」をつくり入れることから始める。小さな変化が、生徒を真の学習主体者へと押し上げる大きな一歩となる。

